

参考情報1

** 麻痺性貝毒プランクトンの数と毒化との関係 **

「貝毒プランクトン(*Alexandrium* spp.)出現情報」を見ましたが、どれくらいのプランクトン数があると危ないのですか?という質問をよく聞きます。そこで、荻浜沖(仙台湾)の貝毒プランクトン出現状況と麻痺性貝毒による毒化との関連について検討しました。

週1回の割合で調査した平成16および17年麻痺性貝毒シーズン(1月~5月)の原因プランクトンのデータから、二枚貝の急激な毒化が懸念される出現数を求めてみました。データは荻浜沖調査点の0m,2.5m,5m,7.5m,10m層の平均値(1リットル当たりの細胞数)です。

両シーズンともに1リットル当たり100~300細胞観察されてから、1週間後には数1000細胞まで急上昇しています(図1)。この時点で出荷自粛値3.0MU/g(可食部)~規制値4MU/g(可食部)に近い値の貝毒が沿岸漁場のカキから検出されています(図1)。

このことから、上記の平均値で100~300細胞/Lの*Alexandrium* spp.が観察された場合、その後に急激な同プランクトンの増加と二枚貝の毒化が予想されます。生産者の方はプランクトンの出現状況を良く見極めて貝毒検査の実施を密にしたり、生産体制を考えるなどの対策をとって下さい。

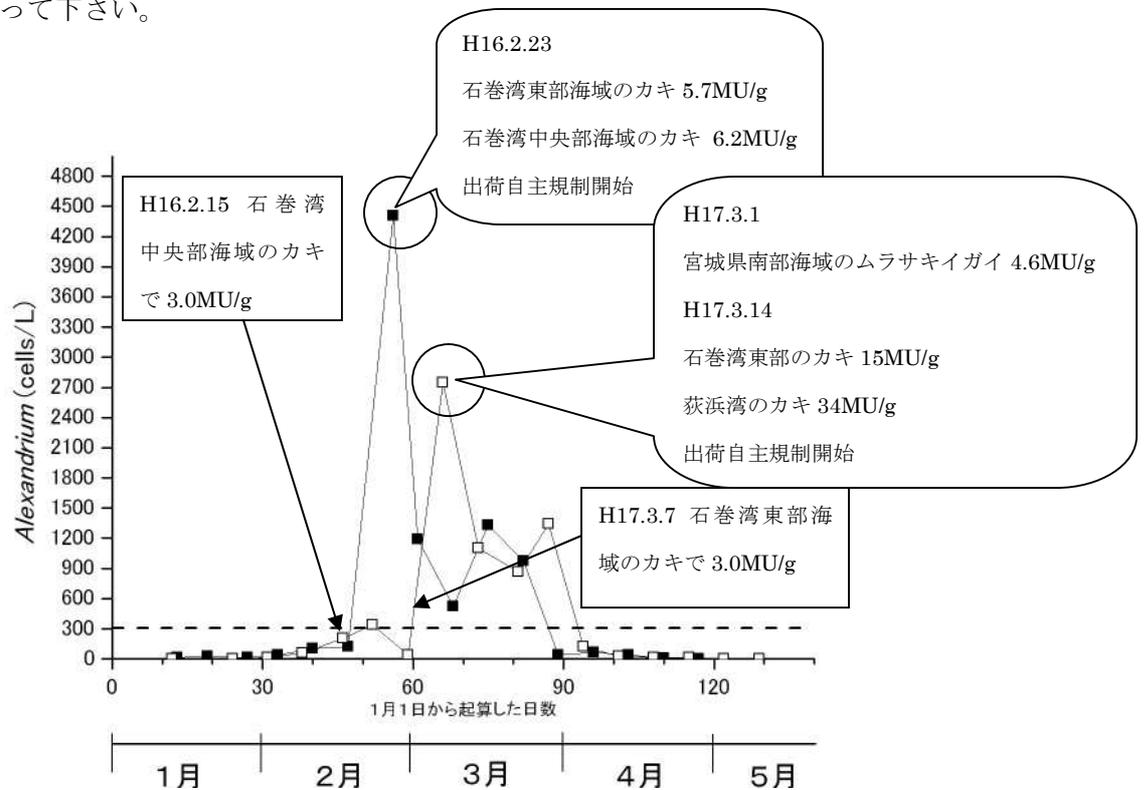


図1 H16/H17の荻浜沖における*Alexandrium*属出現状況